

2023年12月5日

食べ物と人

～ はつらつ野洲っ子育成フォーラムから ～

12月2日(土)、さざなみホールで「育成フォーラム」が開催されました。小中学生6人の作文発表とパネルディスカッションです。祇王小の奥野教頭先生がうまく進行され、発表に沿った意見交換がなされました。中でも私は2番目の発言者の野洲北中2年の眞野勘太郎(まのかんたろう)さんの作文がすごく印象に残りました。終わってホールの玄関で写真を撮ってもらっていた眞野さんを見つけた私は、声を掛けました。すごく心を打たれたこと、「教育長だより」に載せたいことなどです。そうして、本人に了解をもらいました。以下に紹介します。

食べ物は、人の命につながります。私はおじいちゃんが亡くなったときにそれを感じました。おじいちゃんは、ごはんが食べられなくなり、どんどん痩せていきました。おじいちゃんは、元気な頃からお酒が大好きで、その頃はいろいろなものを食べて、スキーや水泳などをしていました。水泳では、京都代表に選ばれて、大きな大会にも出場するほどでしたが、徐々に偏った食生活になったうえ、ごはんなどを全く食べなくなり、どんどん痩せて元気がなくなっていきました。そして最後は、何も食べられなくなり、亡くなってしまいました。そんな姿を見て、元気であるためには食べることが大事なんだと思いました。だから、食べるということは人の命に関わるとても大切なことだと思います。

私は小学生の頃から、ラグビーと柔道をしていたこともあり、コーチやお父さんから「食べるのもトレーニングだ！いっぱい食べて丈夫で大きな身体をつくりなさい。」と言われていました。だから好き嫌いなく、何でも食べて大きな身体になりました。

そして、バランスを考えて健康に良い食事をしようとする、その食べ物には、どんな栄養があるのか、その食べ物は体にどんな影響があるのか知りたくくなりました。

例えば、白ご飯は炭水化物で人間のエネルギーになります。そして、しっかり筋肉のついた身体になるには、良いタンパク質が含まれている鶏の胸肉や赤身の牛肉をしっかりと食べるようにと、お父さんに言われました。お母さんからは、野菜や魚をたくさん食べなさいと言われました。野菜には、たくさんのビタミンやミネラル、食物繊維が入っていて、魚には骨を強くするカルシウムが入っています。

私は、自分が料理をするようになってからわかったことがあります。それは、給食センターの人の大変さと給食の大切さです。なぜなら、自分で料理をして家族全員分のごはんを作るのにもたくさんの時間がかかるのに、給食センターの方は、何百人、何千人もの給食を作るという作業を私たちのために毎日毎日してくれているからです。それなのに、給食センターの苦勞を考えずに、毎日給食を平気で残している人を見ると、私たちのために毎日何時間もかけて、給食を作ってくれている人の

ことを考えて行動してほしいと思います。

給食を作るためには、私たちの身体を丈夫なものにするためのバランスの良いメニューを考えてくれる人、たくさんの材料を作ったり育てたりしてくれる人、そしてその食材を調理してくれる人がいます。そんな人たちの思いの詰まった給食が、元々入っていたトレーを空っぽにして給食センターに返却することが、直接会っては言えないけれど、「ごちそうさまでした。おいしかったです。ありがとうございました。」という感謝の気持ちを伝える一番の方法だと思います。だから少しでも残食を減らして、給食センターの人に、たくさんの感謝の気持ちを伝えたいです。

私は、将来たくさんの人に栄養のとれるごはんを作れる料理人になりたいと考えています。そのために、最近は料理をがんばって作っています。家族や友達に自分で作った料理を食べてもらおうと、「おいしかった、ありがとう。」と言ってもらえます。みんなが笑顔で私が作った料理を食べている姿を見ると、がんばったかいがあったととても感じられます。

これからも給食センターの人に感謝を伝えられる行動をして、将来は、給食センターの人のようにすばらしいごはんを作れる料理人になりたいです。

眞野さんの作文は、おじいちゃんから教えてもらった「食」の大切さや、お父さんお母さんのアドバイスを自分のこれからの生き方につなげて考えているところがすばらしいと思います。

私、この発表を聞いて、40年くらい前のことを思い出しました。大阪の中学校に勤めていた時のことです。2学期、中1に小柄な男の子が転入してきました。その子が2年生になり、12月に作文を書きました。「2学期のまとめ」というテーマだったと思います。病気がちのお父さんと二人家族で、家にはあまり食べ物がなく、クラスの友達からおにぎりやパン、お菓子などをよくもらっていることなど、確かこんな内容が書かれていました。「〇〇さん、〇〇〇のとき、おにぎりをくれてありがとうございました。うれしかったです。」などのような文が続いていました。(クラスのほとんどの子が、何らかの支援をしていたのです。)その子が作文の最後に書いたのが、「栄養いっぱい給食がぼくが一番好きです。ぼくがここまで大きくなったのは給食のおかげです。ありがとう。」この作文を読んだ校長先生は、目に涙を浮かべて「これ、今から給食センターへ持って行ってくるわ!」と言って、足早に学校を後にされました。私はまだ20代。校長先生の涙を見たのは初めてでした。